

## 令和2年度岡山県地方独立行政法人評価委員会(第2回)の議事録

- 1 日 時 令和2年7月3日(金) 14:00～15:40  
 2 場 所 ピュアリティまきび(岡山市北区下石井)  
 3 出席委員 萩原委員長、秋山委員、小田委員、清水委員、桑原委員  
 4 議 事

(1) 公立大学法人岡山県立大学 令和元年度業務実績報告

### 【要 旨】

#### 4 議 事

(1) 公立大学法人岡山県立大学 令和元年度業務実績報告

・公立大学法人岡山県立大学より説明

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
資料の5頁に要点がまとめられています。 TOEICですが、2年生では点が落ちるのは、以前からその傾向がみられるのか。	以前からそのような傾向は見られ、語学の教員は、責任を感じているところである。 学生のモチベーションが低いのかなとも感じている。本学への留学生が少ないことも原因として考えられ、留学生が多かったら自然と語学が身に付く部分もある。意識が高く、頑張っている学生は伸びているが、モチベーションが低い学生との差が大きいと感じている。英語の授業を厳しく評価すると共に、楽しみながら英語を学ぶ環境も提供したい。
留学生の話は大事だ。キャンパスの雰囲気も変わるし。	海外の協定校と、教員の交流、学生の交流を増やそうとしているが、コロナの影響で、本年度はその取り組みが中断してしまった。 オンラインで海外の学生とディスカッションすることもいいと聞いたので、そうしたことにも取り組んでいきたい。
地道に努力してください。	
TOEICについてだが、学生の英語力は大学に入る時がピークで、その後落ちる傾向がある。県立大学では、何か対策を講じているのか。	推薦入試の合格者に対する入学前の教育としてウェブで取り組んでいる学科もある。その成果までは検証できていません。
語学教育にお金をかけても、砂に水がしみ込んでしまうように感じている。 学生全体の底上げはかなり難しいと感じている。	語学の教員が、英語の授業をいろいろ工夫しているが、実績はなかなか現れない。
楽しみながらの英語の学習とTOEICの点数の向上をどのように組み合わせしていくのか難しいが、いろいろ工夫して欲しい。 次に、就職についてだが、私学であれば他県からの学生は就職で地元に戻してあげるといった考えがあるが、県立大学だから県内にという思いが強いのか。もともとの県内出身者の比率はどうか。	昨年度の卒業生では、県内就職率が45.8%、その学年の学生が入学したときは48%が県内出身者なので、2%ほど減ったことになる。 県内出身者の入学者は50%前後で推移しており、県内就職率もほぼ同じくらいである。
県外からの入学者は、どの地域が多いのですか。	中四国や、兵庫など京阪神が多い。
アドミッション・高大連携センターを中心にとあるが、「アドミッション」という言葉を高校生がどのように理解しているのかも大事なことだ。アピールの仕方が一般的で個性がないように思うがいかがか。	今まで、各学部、各学科で入試対策を考えてきたが、大学全体として動くべきだと考えている。専門のオフィサーを招聘して取り組んでいるが、オフィサーからは、高校への情報が薄く遅いと指摘されている。積極的に高校に足を運んで直接的にアピールしつつ、SNS等で等も活用しすぐに情報発信できる体制をとりたいと思っている。

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
項目「11」のインターンシップについて計画は「55人」だったが、実績が「28人」となった理由は。	このインターンシップとは、長期のものごとであるが、H30がこの制度の初年度であった。初年度と異なり、2年目は下がる傾向がみられる。3年目の今年は現在のところ「47」となっているが、これはコロナの影響を受けました上の数字である。増えた理由としては、昨年度末に開催したエンジニアリング演習の学内報告会に下級生が多く参加していたことから、先輩の活動内容に興味を持っていたのではないかと考えている。こうしたことにも力を入れ、参加者を増やしていきたい。
学生に対する要配慮であったり、合理的配慮が必要な学生は増えているのか。	合理的配慮が必要な学生の数に大きな増減はないが、コロナの関係でオンライン授業のようになったところ、レポートが出せないという(合理的配慮までは必要ないが)グレーゾーンの学生がいることがわかってきた。
項目「37」のICTについてだが、コロナ対策としての遠隔授業の現状を教えてください。	授業は原則としてオンラインで行うこととしている。学生に対しアンケート調査を行っており、その結果から、通信環境が悪い学生がいることが判明し、WiFiルーターの貸し出しを行うことで対応している。
大変だが、頑張ってください。 入試の倍率だが、2.6倍と少し低くなっているが、情報工学部が苦戦しているのではないかとと思うがどうか。	情報工学部は、老舗的に立ち上がり、改革が遅れたのではないかと感じている。情報工学部は3学科あるが、高校生に対して、学科の特長のアピールが弱いかなと思っている。関係者に将来計画について考えてもらっているところである。
情報工学の名前はそのままですか。	そのままです。
大学の情報発信が少ないのではないかと。学生は、動画を見ている。例えば、HPでアクティブラーニングを行っているところをアップするとか、介護の授業をアップすると、学生に分かりやすいのではないかと。ぜひ工夫してみてください。	いいご指摘いただき、ありがとうございます。私も、大学の情報発信力が弱いと感じている。情報発信する体制整備について、検討をしているところでもある。予算的な制約はあるが、HP等での広報において最新の情報がそこにあると言えるよう、取り組んでいきたい。
県立大学の特長は、情報・デザインだ。さすが県立大学と言われるようなPR方法を考えてほしい。	委員長がおっしゃるとおり、デザイン学部があるのにどうなのと言われることもある。学部の教員は、専門分野のことなので変に遠慮しているようなところもあるようだ。遠慮せず楽に取り組んでほしいと思っている。
県内就職率が50%を切るくらいだと聞いたが、県外就職者が特に多いという学部はどこか。	県外就職者が多いのはデザイン学部である。逆に保健福祉学部は6割が県内である。
デザイン学部は、東京志向が多いようである。デザイン学部の学生が県内に魅力を感じ、残ってくれたらいい。若い人の気持ち分かるのは若い人だ。学生の力を活用して県大の魅力をPRしてもいいのではないかと。	デザイン学部の教員は、都会で自分を磨いてこいという感覚が強いようである。岡山創生学等で岡山の魅力を伝えているところであり、デザイン関係でも県内におもしろいものがあることがわかってもらえつつある。建築学科では、岡山ならではの木材・木造建築の研究といったことも学生に伝えていきたいと考えている。
銘建工業などと一緒に取り組みたいですね。	そのような話はしています。銘建工業や真庭市と一緒に取り組み、フィールドを提供していただくという話を進めている。

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>コロナの関係で、いろいろと今までと違ってきていると思うが、その対応を計画に加えるようなことは考えているか。学生向けの対応を具体的に教えてほしい。</p>	<p>学生の状況を把握するため、アンケートを実施したところである。経済状況や、通信環境・オンライン授業などを調べた。アンケート結果については、解析を進めているところである。コロナのため、対面形式ではなくオンラインでの授業を基本としているが、オンラインがいいのかどうかを検証しなければいけないと思っている。オンライン授業がいいという学生もいれば、対面形式の授業がいいという学生もいる。教員にも両方の意見がある。</p> <p>いずれにしても、ピンチをチャンスにしていきたいとの思いである。</p>
<p>オンラインは双方向か。 また、第1クオーターの成果をどのように評価するのか。試験をするのか。</p>	<p>オンデマンドと双方向の両方がある。双方向の方が理解度が高くなるが、学生の時間の都合から、オンデマンドが良いとの意見もある。</p> <p>第1クオーターは授業をすべてオンラインで行ったため、レポートによる評価がほとんどである。</p>
<p>資料に、建築学科で受験資格が取得できる資格として、一級建築士、二級建築士、木造建築士とあるが、木造建築士は認知度が低いので、逆にそれを売りにしてみてもどうか。</p>	<p>どのようなものか、確かめてみる。</p>
<p>項目「19」の退学者について、在学者に対する比率はどうか。休学についてもどうか。 また、原因分析はどのように行い、それに対して大学はどのように対応しているのか。</p>	<p>在学者に対する退学者の比率は1～2%程度である。</p> <p>退学について、届け出に理由を書くことになっているが、書類上には書かれていないことが原因となっていることも多いようである。具体的な話を聞いてみると、入学してみて入学する前の大学のイメージと異なっていたとの理由が多いが、友人関係や、勉学についていけないといった理由もある。こうした問題への対応のため、すべての学生に担当教員を複数人付けて、相談にのるアドバイザー制度をとっている。場合によっては、保護者面談をすることもある。</p> <p>(休学については、情報工学部では留年が多いが、留年した年度の途中で卒業単位がそろってしまい、卒業研究までの残りの期間休学するというケースもある。)</p>
<p>項目「25」の研究助成事業の採択率が30%を超えたのは素晴らしい。</p>	<p>まずは、申請をして科学研究費補補助金を獲得することを目指して頑張った。採択率が上がれば獲得金額も増えると考えていたが、申請に対して採択の割合は高かったが、大きな金額のものは少なかったようである。</p>
<p>素晴らしい実績だと思います。科研費は採択されたら複数年継続して研究費がもらえるので、今後金額も上がるのではないかと。</p>	
<p>今年はコロナの影響でなにかと動きにくい状況ではあるが、メリハリをつけて取り組んでほしい。また、学生の学ぶ意識を高めてほしい。 また、デザイン学部があるので、いいアピールをしてもらいたい。さすが県立大学だと言われる魅力度を上げてほしい。</p>	<p>評価として「2」としたものが1/4程度あった。すべてがうまくできるとは思っていないが、重点的に取り組むべきことを明確にするとともに、すぐに取り組めることはすぐ実行していきたい。</p>